趣味の着物、草履・下駄、着物のお手入れ、着付けなどお気軽にご相談ください。

きもの新聞 2018年8月号

ごあいさつ

冷房をかけっぱなしで寝ている今日この頃です。最近テレビなどで、クーラーをかけて寝た方がいいという内容を良く目にします。昔はクーラーにあたりすぎない方がいいなんて言っていたのに、昔からの常識が変わること最近多いですよね。ともあれ夏バテには気を付けましょう。

９月の連休　　９月４日（火）５日（水）

特集　大島紬の産地を訪ねて①

手で触ってみるとその粒子の細かさを実感することができます

泥に浸ける回数が増えるほど、黒さが際立っています。

７月の中旬問屋さんとご一緒に奄美大島を訪れてきました。奄美大島といえば言わずと知れた『大島紬』ですよね。２０年前にも修行先の研修で一度訪れたことがあったのですが、今回改めて大島紬を一から勉強しなおしてきました。

大島紬の特徴がもっとも現れる工程は、泥染と締め機という糸を作る工程の作業で、この二つの工程によって泥染の深い黒と精緻な模様が生まれます。

泥染はまずテーチギを煮出した液につけ、その糸を泥田でもみこむことで徐々に色が変わっていきます。６０回から１００回ほど繰り返すといいますから、糸を作るだけでも気の遠くなるような作業です。一番驚いたことは、この泥染は奄美大島出なければできないということです。奄美の泥はきめが細かいので、鹿児島の泥で染めると泥が粗いため、糸が切れてしまうそうです。また以前、奄美の泥を鹿児島に持って行って染めたことがあるそうですが、これまた、大島紬の風合いが出ないので、いろいろ調べてみると、泥田にいる微生物などが大島紬の風合いに大きな影響を及ぼしているそうです。そう考えると、大島紬はこの土地で生まれることが必然であったし、風土に育まれ、奄美大島の女性たちの仕事としてくらしと密接に結びついた織物ということができます。
今月号では泥染までしか書けませんでしたが、来月の特集でも引き続き大島紬についてつづっていきたいと思います。お楽しみにお待ちください。

新入荷商品のご紹介

絽ちりめん　帯揚げ

かつては、単衣用として使用されていた絽ちりめんは、現在では夏用にも使えます。涼しい色目でまだまだ続く暑さを涼やかにコーディネイトしましょう。

１０８００円

張正　雪花絞り　ゆかた

ひとつづつ手作業で絞っていくため、同じものが一つとしてできず、一期一会の柄との出会いです。

５９４００円

花しおり　かんざし

松と唐草という最も伝統的な日本の柄を使いながらもどこかモダンな雰囲気を漂わせている花しおりのかんざしです。

５７２４円

花しおり　ふくさ入れ

バッグの中に潜ませて、小物入れや化粧ポーチとして色々な用途に使える多用途なポーチです。帯などにも使う上質な裂を使うことで、上品な高級感あるふくさ入れに仕上がっています。

１４０４０円

twitter、facebook、アメブロやってます。

着物・和雑貨のかわちや フェイスブックページ

http://www.facebook.com/kawachiya888

もっと着物を楽しもう！ かちゅうあんブログ

http://ameblo.jp/kawachiya/

日々、ブログを更新しています。
着物のこと、日常のこと、音楽のことなどつづっています。
チェックしてみてください。

呉服の河内屋
〒444-0521
愛知県西尾市吉良町上横須賀八王子62
http://www.gofuku-kawachiya.co.jp
メール　info@gofuku-kawachiya.co.jp
tel 0563-35-0039　fax 0563-35-3539